



安全で住みよい都市・市民 特色あふれる文化と平和

「墓地整備基本計画」策定のため、市全域の墓地実態調査を行います。

(みどりと水辺の公園の整備)ラムサール条約に登録された漫湖や、市内にわずかに残された末吉の森などの、自然環境の保全に努めるとともに、自然観察指導員やボランティアを養成し、エコツアーリズムの推進、市民への啓発を行います。

潤いと安らぎのあるまちづくりのため、「チヨウの舞う街づくり推進事業」を実施いたします。

「全国ハープサミット」を開催し、暮らしの中へのハーブの定着と、観光資源としての活用を図ってまいります。

緑化に関する、普及啓発活動を進めるための交流拠点として、新都心地区に「緑化センター」を整備します。

次に、「学び創造する文化都市について」申し上げます。

(生涯学習の総合的推進)子育て支援施設として、未吉公園内に建設した「森の家みんみん」を活用し、幼児・児童などを対象に自然体験、社会体験ができる場を提供します。

余裕教室を地域交流施設に改造し、たくましい児童を育成し、将来の那覇市を担う子どもたちが健全に育つよう、学校施設の開放を促進します。また、復帰30周年を記念して、「ウィーン少年合唱団」の天使の歌声を、多くの市民に堪能していただく機会を提供するとともに、市内小中学生とのジョイントコンサートを行い、交流を図ります。



安全で楽しく利用しやすい公園で、元気いっぱい遊ぶ子供たち。

(幼稚園教育・学校教育の充実)幼稚園の教育環境の格差を是正するため、適規模および適正配置について、検討いたします。

学校や地域の特性を活かし、教育内容を充実し、教育活動を主体的に推進するため、「特色ある学校づくり」に取り組んでいきます。

幼児教育の充実を図るため、市立の3幼稚園において2年保育のモデル園を導入し、子育てを支援します。

現在、10名の外国人英語指導員を17名に増員し、全17中学校へ1名ずつ配置することにより、英語教育を充実させます。

小学校に配置している教育相談支援員を、週2日体制から週3日体制に強化し、不登校児童や保護者への支援の充実を図ります。

新都心地区の、小学校および幼稚園の建設に向け、基本設計、造成工事などを実施いたします。

徒の心身の健全育成を図るとともに、家庭・地域・学校の連携交流を目的に開催される「小学校陸上競技大会」を支援いたします。

完全学校週5日制への対応と、地域力アップのため、「三世代グラウンド・ゴルフ大会」を開催いたします。

新都心地区の新庁舎候補地を、野球やサッカーなどができる多目的広場として、市民に開放します。

(伝統文化の保存と継承)尚家の文化遺産を、広く県内外に公開するため、「尚家継承文化遺産展」を開催いたします。

本市に寄託された、人間国宝・金城次郎氏の作品を中心とする、特別展示会を開催し、広く市民・県民、観光客に公開します。

世界遺産に登録された、首里城を中心とする文化財を活用し、観光の振興を図るとともに、伝統文化の保存と継承を図るため、「世界遺産周辺整備事業」を実施します。

また、市民が文化と接する機会を増やすため、市立病院などでも「お役所ライブ」を実施するとともに、「那覇市文化協会創立10周年記念事業」をはじめ、市民の文化活動を支援いたします。

次に、「アジア・太平洋の自由貿易都市」について、申し上げます。

(商工業の振興)企業誘致を促進するため、「那覇市企業立地促進奨励助成金交付制度」を引き続き実施いたします。

新規事業として、IT関連産業の集積と新規企業の創出を支援するため、新都心地区に、「IT共同利用型インキュベーター施設」を建設します。

また、新たに制定される「沖縄振興特別措置法」における「産業高度化地域」の指定に向け、取り組んでまいります。

中心市街地の活性化や雇用の創出、人材育成を図るため引き続き「NAHAぶんかテンプス事業」を実施いたします。

また、市民が文化と接する機会を増やすため、市立病院などでも「お役所ライブ」を実施するとともに、「那覇市文化協会創立10周年記念事業」をはじめ、市民の文化活動を支援いたします。

次に、「アジア・太平洋の自由貿易都市」について、申し上げます。

(雇用・勤労者対策の充実)雇用対策については、危機感をもって「緊急雇用対策事業」に取り組むとともに、本市独自の取り組みとして、専門学校などに進学することが経済的に困難な市内高校生に対し、奨学金を支援する制度を創設します。

また、市役所内でのワークシェアリングの一環として「総合案内所」へ臨時職員を配置するなど、雇用の拡大を図ってまいります。

地域の場を確保するため、地域経済の牽引力となるような企業の誘致と、既存企業の事業拡大に対する支援を行います。

(港湾・空港の整備)那覇港については、これまで本市が港湾管理者となって整備を行い、沖縄県全体の経済・物流拠点として、大きな役割を果たしてきました。

那覇港は、今後も21世紀の沖縄県発展に重要な役割を果たす、「ハブ機能を有する国際流通港湾」として整備することが求められています。

平成14年度からは、沖縄県、那覇市および浦添市の三者が一体となって、那覇港を開発整備し、財政基盤の安定を図るため、「那覇港管理組合」が設立されます。

那覇軍港移設に伴う、「県都那覇市の振興に関する協議会」への取り組みについては、軍港を含め、市全体の活性化につながる振興策について、県と連携して、国の支援を求めてまいります。

那覇空港の拡張につきましては、平成15年度に決定される、「第8次空港整備5箇年計画」に新滑走路建設が盛り込まれるよう、強く国に働きかけてまいります。

米国同時多発テロの影響による、観光客の落ち込みを回復するため、県や観光コンベンションビューローはじめ、関係団体と協力し、各種イベント・誘客活動を実施いたします。

従来は、復帰30周年を記念し、「ビーチオリピック(仮称)」を開催いたします。また、日本・韓国共催で開催されるサッカーワールドカップのプレイベント「SAIL KOREA 2002世界帆船フェスティバルin沖縄」に参加する乗組員を歓迎し、交流イベントを実施いたします。

全国市長会の「港湾都市協議会総会」や、全国知事会に開連して開催される「沖縄全島ふるさと大会」などの、各種会議・コンベンションを積極的に誘致し、支援してまいります。

沖縄のうた、踊りを中心とした伝統文化を映像デジタル化し、観光および教育の拠点で活用します。

最後に、「行財政基盤および執行体制の強化」について申し上げます。

電子市役所を構築し、行政サービスの向上をめざす観点から、市民サービスの向上に努めます。

事務事業を成果重視の観点から評価し、市民への説明責任を果たしていくため、「事業評価システム」を段階的に導入してまいります。

さわやかな対応で市民満足度の向上、サービス提供のスピードアップを目標に、平成13年度から取り組んできた国際標準規格である「ISO9001」については、平成14年度中の早い時期に認証取得し、市民サービスの質の向上につとめます。

平成14年度から16年度を推進期間とする、「那覇市経営改革アクションプラン」を策定し、協働社会の実現と新時代に対応できる、行政システムを確立します。

市町村合併については、研究会を設置し、関係市町村と十分話し合い、その実現をめざします。

平成14年度2月22日

那覇市長 翁長雄志

生涯学習フェスティバルで実験を楽しむ子供たち